

治療した部位と治療方法

1 問診診察結果 (ベンツ乗用車) SLR 品番:DMD -7 2 2 S

- (1) 電池容量は6.5Vあるが、全く動かない
- (2) 正常な動きは、ラジコンとノーマル足ペダル・手回しハンドル操作の切替走行ができる。
- (3) 音楽2曲流れる。クラクションも鳴る。音量ボリュームもついている。
音楽流れる時にカラーライトが点滅する。
- (4) 電源直流6ボルト充電式、500mA 溶断ヒューズは、Dc 50V 10A
- (5) 乗車重量25kg、車長121cm、車幅65cm(ミラー幅)、車高48cm、



図-1 右側面



図-2 部屋での正面



図-3 後方から

- (6) 溶断ヒューズ診察の結果、ヒューズの入口は6.5Vだが、出口は4.2Vしかない。
抵抗を測ると全く導通していない。エンジンキーの元までも電気がきていないので、ヒューズが溶断しているものと判断、それから先の診察も出来ないので入院して頂くことにした。

2 治療の方法

- (1) 高知診療所始まって以来最大のおもちゃ、しかも路面上で乗ることが多い自動車であり、タイヤが汚れていたり、誇りがたまっていたりして、部屋へ上げるまでに洗車(布を水で湿らせて拭く)をした。
- (2) ネットで同じ溶断ヒューズを探したが、見つからなかった。
ネットでは、新型のベンツになっており、SLRの関係は調べられなかった。
- (3) ホームセンターや車専門店でも同じものは売っていなかった。
車専門店でもDC 12V 10Aのヒューズとカプラー用端子を買って来て、図のように加工した。



図-4 ヒューズ



図-5 カプラー端子



図-6 加工1

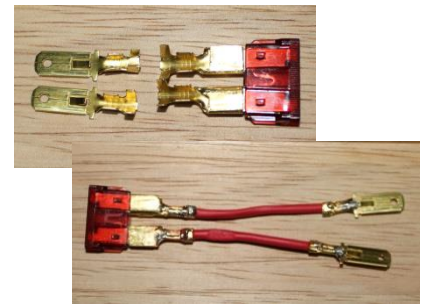


図-7 加工2

- (4) 図-5はカプラー。図-6はカプラーを一旦広げて平たく延ばしヒューズ端子幅の模型を作りその幅に合わせて加工した。
ヒューズへ加工したカプラーは抜差しができる。図-7上
- (5) カプラーのオスとメスを半田付けしたもの。図-7下
- (6) ヒューズにカプラーを差込んだ後ヒューズ部にカバーを手作り取り付けた。図-8の上
- (6) 図-8の右下黒い四角のヒューズは、溶断していた取替える前のヒューズです。

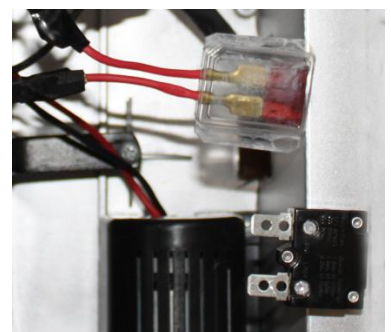


図-8 ヒューズの交換

(7) 電源部は治療完了した。

キースイッチONにするも、エンジンかからず。スイッチの元で電圧測ると着ている。スイッチを外して分解すると、図-9の通りであった。



図-9 治療前 錆びた接点

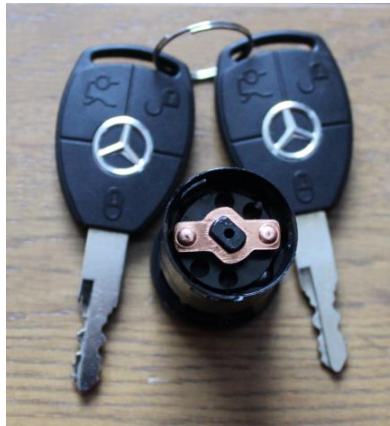


図-10 キーの内部接点

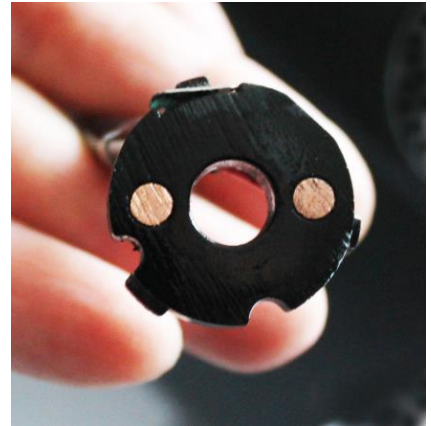


図-11 治療後の接点

(8) ペーパーで磨いて接点復活剤をつけてきれいになった状態で組み立てた。

結果は良好。一発でエンジンが始動し、エンジン音が鳴り響いた。ライトも点灯した。

(9) リモコン操作も100%OK、クラクションも鳴る。音楽も左右SWとも奏でる。音量調整OK。音楽に同調してライトの色も変化する。

(10) ただし、無線操作はOKなのに、手動操作切替レバーで前にも後にも動かない。前進・後退スイッチを分解して点検したが、異常はないようだ。接点復活剤をスプレーして組み立てた。図-11

(11) 無線・手動切替スイッチも点検したが異常なし。

(12) 「お手上げか」と諦めかけていた時にブレーキ灯のペダルくらいに思っていたペダルが、実は走行ペダルだった。前のライトは点灯するのに、後方バック灯の配線・電球はなかった。

(13) 走行ペダルの右側の赤い頭が前進後退スイッチで、どちらかに倒すだけで動くものと思い込んでいたが、ペダルを踏み込まないと動かない仕組みだった。

(14) 以上で100%治療は完了した。後は、退院を待つばかりだ。



図-11 手動スイッチ



図-12 走行ペダル

3 ドクターからのアドバイス

(1) 超簡単な取扱説明書しかなく、しかもHPには、「SLR DMD-722S」の取扱説明書はなかった。

(2) 図-12の前進・後退スイッチレバーの前に赤い電源スイッチがあるが、配線はされていない。図-13

説明書にはないが、電源スイッチと同じ役目のキースイッチが取り付けられている。図-12

(1) 熔断ヒューズが熔断した原因は分かりません。

ヒューズを交換・キースイッチ修理後は正常ですので・・・。

(5) 充電時間は8～12時間となっています。

過充電しないよう注意しましょう。バッテリー保護のために。



図-13 配線の無いSW

お渡しした日：平成28年5月吉日

担当ドクター：谷 春 雄